

町公民館だより

編集 日野町公民館 〒689-5131 日野町黒坂1243番地1
電話：74-0212 FAX：74-0105
E-mail：kouminkan@town.hino.tottori.jp

情緒あふれる古の空間・美観地区

▼おしどり学園町外研修



▲大原美術館を背に記念写真



▲復興進む倉敷市内

9月21日、恒例となったおしどり学園の町外研修を行いました。今年は、岡山県倉敷市の美観地区を訪れました。倉敷市は、7月に発生した豪雨災害で被害を受け、現在、全国から支援の輪が広がっています。倉敷市への研修旅行は、年度当初から予定されていたものでしたが、被災した倉敷市に何かできることはないかという思いを強く持っていました。そんな中での旅行は、被災地へ出かけるからこそ復興につながるものだという参加

した学園生19人の気持ちの表れでもあります。幸いにも美観地区は被害がなく、大原美術館で多くの美術作品を鑑賞。地区内にある約230年前の商家の母屋を改築した食事処で昼食を取り、親睦を深めました。その後は、美観地区を自由行動。学園生は、白壁の町屋や蔵が立ち並ぶ倉敷川沿いをそぞろ歩き、江戸情緒あふれる町並みを堪能することができました。皆さんも、おしどり学園に入って毎月の講座や年一回の町外研修に出かけてみませんか。詳しくは、町公民館（電話74-0212）までお問い合わせください。

▼第6回おしどり学園



▲「普段できないことは、いざという時できない」と天野さん

10月19日、第6回おしどり学園を開きました。講演では、「災害から身を守る」と題し、日野町危機管理監の天野智さんを招きました。天野さんは、今年の4月に危機管理監に就任するまで、西部消防局の職員として勤務。「消防・防災」のプロが教える災害からの身の守り方について講演しました。今年も、今まで経験したことのないような大雨や台風に見舞われたことは、記憶に新しいと思います。はじめに、天野さんは、地域住民の災害に対する不安を

少しでも解消できるように日々取り組んでいることを説明。さまざまな資料を示しながら、「地域の気象特性や防災リスクを的確にとらえることで、課題が見え、地域防災力の向上につながる」と話します。さらに、過去の災害・被災現場の写真を指しながら、土砂災害や地震、津波など、想定外のスケールで起こった事例を紹介しました。また、災害派遣の経験から学んだこととして、「被害を最小限に抑えるためには、地域住民が連携する自主防災組織が重要」と天野さん。続けて、「災害時に大きな力となるのが、自身の防災に対する備えとご近所同士の助け合いです」「個人や家族の力だけでは限界があります。日ごろからご近所づきあいを円滑にして、一緒に防災活動に取り組んでください」と締めくくりました。学園生は天野さんの話に熱心に耳を傾け、地域や自分の防災意識を高める一日となりました。

地域に広がる学習活動

▼出前公民館真つ盛り



▲秋の味覚を堪能する
黒坂1区の皆さん

年間を通じて希望のあった地域に出かけていく「出前公民館」。今月は、10月4日に舟場夢創会（舟場）、10月15日には、高橋伸也さん指導の下、黒坂2区自治会がターゲッティングとビンゴボードゲームなどのニュースポーツを楽しみました。

また、10月17日に行われた黒坂1区での出前公民館では、午前中に料理教室を開催。町食生活改善推進協議会の皆さんを講師に、「きのこことベーコンの混ぜご飯」「塩麻婆なす」など、季節の味を堪能しました。午後は、参加者で映画を鑑賞。懐かしい大正、昭和の世界観を味わいました。

▼ニュース スポーツを楽しむ 舟場夢創会 の皆さん



次回おしどり学園のご案内

日 時
場 所
内 容

12月21日（金）午前9時30分
町公民館 講堂

「4Kで広がる放送文化」／講師 中海テレビ放送
12月から始まる4K（※）放送は、現行のハイビジョンよりも、さらに美しく、細部までより高精細な画質が楽しめます。
そんな注目の4K放送とは何か、視聴する方法などを紹介します。

※4Kはハイビジョンの4倍の高画質。
ハイビジョン（約207万画素）、4K（約829万画素）

知れば知るほど深まるきのこの世界

▼秋の自然観察・きのこ鑑定会



▲採取したきのこを鑑定する牛島さん（右）

10月13日、鶴の池公園周辺で、「秋の自然観察・きのこ鑑定会」が行われました。

当日は、県内外から7人が参加。日野の初秋を満喫しながら、たくさんきのこを採取することができました。
「アミタケ」「オオイチヨウタケ」「カノシタ」「ナラタケ」など食用のきのこもたくさん採れましたが、「テングタケ」「チャツムタケ」など毒きのこも見つかりました。

採取したきのこは、講師の日本きのこセンター・牛島秀爾さんが鑑定。約30種のきのこの名前や特性を知ることができました。

ふるさとのことば

～日野弁なんずかんず～ 第64回

ええによばこによば

秋です。日野の秋の風物詩といえば、アレです。「ハットージ」です。ご存じ、大発生するカメムシ君です。

このハットージ、米子方面の人には意味が通じないことがあります。どうやら、日野地域のほかには岡山・広島の間部周辺の範囲で多く使われている表現のようです。

その独特の名の由来は、岡山県内にある「八塔寺」という寺とする説があります。かつてその寺の僧侶が、洗っていないために臭いを放つ衣を

「カメムシはお嬢さん？」

まとって托鉢に訪れていたから、というのですが、真偽のほどはつきりしません。

また、別の地方では「オヒメサマ」「オジョウサン」などとも呼ばれています。

そういえば、日野でも、「カメムシが臭いを出さないまじない」として、「ええによば（いい女）だなあ」「ええによばこによば」などと唱えながらつまみ出しますね。おだててなんとか気持ちよく出て行ってもらおうという、涙ぐましいお話ではありませんか。

協力：日野町歴史民俗資料館友の会